

## 奄美市における淡水ガメの捕獲記録(2013年)

上野真太郎<sup>1</sup>・興克樹<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻

<sup>2</sup> 894-0045 鹿児島県奄美市名瀬平松町99-1 奄美海洋生物研究会

Record of freshwater turtles at Amami City, Amami-oshima island in 2013

By Shintaro UENO<sup>1</sup> and Katsuki OKI<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Department of Ecosystem Studies, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, 1-1-1 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8657, Japan

<sup>2</sup> Amami Marine Life Research Association, 99-1 Hiramatsucyo, Naze, Amami, Kagoshima, 894-0045, Japan

奄美大島は鹿児島県本土から南西約380kmに位置し、本来、淡水性カメ類が生息していない島である。しかし、人為的に移入されたと考えられるスッポンやミシシッピアカミミガメ(以下、アカミミガメ)が確認されている(大野・高槻, 1991)。奄美大島北部の奄美市周辺においても、市民によるアカミミガメの目撃例が多いが、生息場所や個体数等の詳細な情報が不足している。そこで今回、筆者らはカメが目撃された河川を中心に淡水ガメの捕獲調査を行った。

調査は2013年8月21日から23日の間に、

奄美市を流れる5河川(新川・浦上川・仲勝川及び仲勝湧水池・有屋川・役勝川)で行った。捕獲にはカメ捕獲専用網を使用し、各河川それぞれ任意の地点に網を2つずつ合計10個設置した。

調査で捕獲された生物とそれらの捕獲地点を表1に示す。カメ類は役勝川以外の4河川及び湧水池で捕獲され、捕獲数は合計でアカミミガメ2匹、スッポン5匹、クサガメ1匹であった。カメ以外の捕獲生物はボラ、

表1. 調査地点ごとに捕獲された生物と捕獲数

捕獲場所		捕獲生物		捕獲数
奄美市名瀬石橋町	新川	カメ類	アカミミガメ	2
			スッポン	1
		その他	オオウナギ	1
			コトヒキ	1
奄美市名瀬浦上川	浦上川	カメ類	スッポン	1
			ボラ	1
		その他	テンジクカワアナゴ	1
			オオウナギ	1
奄美市名瀬仲勝町	仲勝川 仲勝湧水池	カメ類	スッポン	1
			クサガメ	1
			テンジクカワアナゴ	1
		その他	モクスガニ	1
			タメトモハゼ	2
奄美市名瀬和光町	有屋川	カメ類	スッポン	2
		その他	テナガエビ sp.	11
		カメ類	-	-
奄美市住用町	役勝川	カメ類	-	-
		その他	テナガエビ sp.	12

表2. 捕獲場所とカメのサイズ

捕獲河川・池	種	性別	CL(mm)	CW(mm)	PL(mm)	BW(g)	生殖腺重量(g)	最大卵胞径(mm)	精巢最大長(mm)
新川	アカミミガメ	メス	221.5	167.6	200.8	1721	28.7	17.2	-
	アカミミガメ	メス	211.6	152.3	198.5	1446	50.4	14.0	-
	スッポン	メス	216.1	151.6	158.5	1197	11.9	6.3	-
浦上川	スッポン	オス	193.0	146.6	143.3	916	22.4	-	63.8
仲勝川・仲勝湧水池	スッポン	メス	188.9	154.1	135.2	826	18.8	12.5	-
	クサガメ	メス	135.4	97.0	120.0	342	1.0	8.3	-
有屋川	スッポン	メス	196.6	158.1	151.0	1151	35.8	11.1	-
	スッポン	オス	216.9	177.5	165.7	1243	24.0	-	53.5

※CL: 背甲長, CW: 背甲幅長, PL: 腹甲長, BW: 体重を示す



**図1. 捕獲されたカメの消化管内容物**

A: アカミミガメ(背甲長211.6mm・新川) 大部分が植物質であった。B: スッポン(背甲長216.1mm・新川) 甲殻類や貝類が多い。C: クサガメ(背甲長135.4mm・仲勝湧水池) 植物質が確認された。

テンジクカワアナゴ, オオウナギ, モクズガニ, タトモハゼ, コトヒキ, テナガエビであった。アカミミガメは事前に目撃例が多かった新川のみで捕獲され, スッポンは網を設置した5地点中4地点で捕獲された。捕獲されたカメのサイズはアカミミガメが2匹とも200mm以上, スッポンはすべての個体が190mm以上であり, クサガメも135.4mmで, 小さな個体や幼体は捕獲されなかった(表2)。また, 捕獲されたカメを解剖し, 消化管内容物を調べたところ, アカミミガメの消化管からは草本植物と陸生貝類が見つかり, 大部分が草本植物であった(図1-A)。同様にスッポンの消化管からは甲殻類, 淡水性貝類, 草本植物の一部が(図1-B), クサガメからは草本植物の一部が見つかった(図1-C)。さらに, 生殖腺の状態を調べたところ, まずメスはアカミミガメ, スッポン, クサガメともに卵殻付きの卵は確認できず, 卵胞は最大径が17.2mmと, 小さなものが多かった(表2)。一方, オスはスッポン2匹のみであったが, それらの精巣は最大長が50mm以上あり, 大きく発達していた(表2)。

今回の調査結果より, 奄美市周辺の水域においても人為的に持ち込まれた淡水性カメ類が生息しており, 中でもスッポンが広域に分布していることが分かった。カメ類と一緒に捕獲された生物の中には鹿児島県レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅰ類に指定されているタトモハゼも含まれていた。また, 奄美大島の河川には同じく絶滅危惧Ⅰ類のリウキュウアユも生息している。今回捕獲されたカメの消化管内容物からは, これら希少種やその卵は発見されなかったが, 淡水性カメ類の食性が雑食性であることを考えると, 希少な水生動物が捕食対象となる可能性も十分に考えられる。また, 捕獲されたカメで卵をもっている個体は確認されなかったが, 大型の個体が多く, 特にスッポンは雌雄そろって捕獲されており, 野外で繁殖できる状況にある。希少水生動物の保全を考えた場合, 奄美大島に生息する淡水性カメ類に対して, 駆除も含め, 何らかの措置が必要となるかもしれない。

## 引用文献

- 大野隼夫・高槻義隆. 1991. 奄美大島における移入動物の概況. p7-12. 池原貞雄(編), 南西諸島の野生生物に及ぼす移入動物の影響調査. 世界自然保護基金日本委員会, 東京.
- 鹿児島県. 2014. 鹿児島県レッドリスト(平成26年改訂)- 汽水・淡水産魚類. <http://www.pref.kagoshima.jp/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/reddata/index.html>